

第2回大和駅周辺エリアプラットフォーム準備会 議事録

日 時	2025 年 8 月 28 日（木） 15:00～17:00
場 所	大和市文化創造拠点シリウス 6 階 610 大会議室
出 席 者	31 名（事務局を除く）
テ ー マ	・ 前回ふりかえりと「みんなで会議」について ・ 未来ビジョンについて～方向性と取組みテーマ～（意見交換） ・ 今後の進め方
結 論	・ 事務局より、前回のふりかえりとみんなで会議の報告を行った。参加者よりエリアプラットフォームの活動目的やねらいに関する質問があがり、改めて、準備会は未来ビジョン検討と組織化に向けて検討していくことを確認した。 ・ 事務局より、未来ビジョンの方向性と取組みテーマの案を提示し、これに対し、①追加や見直すべき事項の確認や、②やってみたいこと・できそうなことについてグループ討議を行った。 ・ 全体共有では、上記テーマの確認に加え、未来ビジョンの策定にあたっては、ビジョンの主導が誰になるのか、スピード感が必要であること、商工会議所の提言を踏まえた議論の必要性、より具体的内容に踏み込んだビジョンとしていくことが必要であるといった意見が挙げられた。 ・ 最後に、今後の進め方に関して確認した。事務局よりスピノフワーキングの提案を行い、承認を得た。

■当日の様子



■意見交換の記録

意見交換のテーマ
① 4つの方向性・各キーワードについて
② 各方向性を実現するための取組として「できそうなこと」「やってみたいこと」

<A グループ>

区分	具体的な方向性	ご意見
方向性 1	楽しい回遊動線	・ プロムナードを活かす方法を考えるべきである。（特に東側は）木がないので活かしきれていない。 ・ 東側プロムナードはシリウスあるが、西側は突然線路が出てきておわるのが残念。 ・ シリウスは多額の費用をかけて整備したが、その費用がまだ還元できていないと感じる。経済が回るような取り組みが必要。 ・ 今後も意見交換をしながら、プロムナードの活用方法を考えていきたい。
	広域的な動線ネットワーク 【新】	・ 花博への動線をどのように確保するのが大きな課題。大和は会場までの間に川や谷があり、地の利が悪い。 ・ 花博会場最寄りの瀬谷・三ツ境よりも大和駅は規模が大きいので、来訪客の滲み出しはあるはず。 ・ 泉の森や引地台公園へのアプローチを充実させるべき。
方向性 2	活動の場や仕組みづくり	・ やまフェスは大変だったが、評判が良く、やってよかったと感じている。 ・ イベント時に住民とトラブルがよく起きる。また、阿波おどりで混雑して自宅に迂回して帰るといったことが起きている。どう対処していくか。
方向性 3	—	意見なし
方向性 4	エリアブランディング	・ 大和支店は県内3番目に海外の方の利用が多い。この特徴を生かしたい。 ・ 相鉄線の延伸により都心からの流れが生まれており、大和は注目されつつある。 ・ 大和は災害の危険が少なく、人口も増えていて、他の地方都市に比べれば恵まれている。ここで話し合うなら、みんなが誇りに思えるようなブランド化ができるとよいのでは。
その他	その他設定すべきテーマ 【新】	・ 自治会が関われるものとして、住民には防災イベントが必要なのではないか。 ・ 災害経験がないため、人々に緊張感がない。 ・ 子育てと健康（健幸）はキーワードとなるのではないか。
	進め方	・ スピード感を持つべきである。 ・ スモールアクションの積み重ねが必要。 ・ 商工会議所の提言書を活かすべき。この取組みは提言書と少しずつ

区分	具体的な方向性	ご意見
		ているところがあるのでは。 - かつて「活性化センター」があったが、うまくいかなかった歴史を捉えながらビジョンを進めていくべき。 - 今ある施設を活かして、新たな方向へ進むべき。 - 条例などの制定も視野に入れる必要があるのでは。 - 主導権は官民どちらが握るのか。どこを目指すのかが分からない。 - 自治会としてどう関わればいいのか分からない。 - 何のためにやっているのか分からないという意見は他の地区でも出ていたが、いまはうまくいっている。生みの苦しみと思う。
	未来ビジョンのあり方	- ビジョンの核の部分をはっきりとさせてほしい。 - ビジョンで終わらせてほしくない。この準備会も、すでに参加者が減りつつある。 - 活性化と言っても過去のどの時点を基準として目標をきめるのかで取り組みは変わってくるのではないか。 - 長期・短期両方見据えたビジョン構想が必要。

< Bグループ >

区分	具体的な方向性	ご意見
方向性 1	楽しい回遊動線	- 駅ビル建替え当時、壁面にテレビを埋め込んでどうかと提案したことがある。サッカーなどがみられると良いし、まちの情報や広告などとしても活用できる。当時は実現しなかったが、横浜銀行の建物などの壁面を活用できるとよい。 - かんざし通りの検討にあたって、図書館の道と銀座通りでは数十 cm 程度の高低差があることが課題である。
	緑や暑さ対策	- 植栽については、相鉄線地下構造物があるため深くまで樹木を植えられる。 - 鳥のフン害やハトの餌やりの課題にも対応する必要がある。 - プロムナードの芝生化は魅力的と感じる一方、暑さ対策も重要な課題となる。 - 暑い時期の対策としては、緑よりミストなどの整備をした方がよいのではないかと。また、日陰をどう作っていくかが課題となる。
方向性 2	まちなかの滞留スポットの創出	- プロムナードの活用にあたっては、基本的な方向性を考えていく必要がある。今は確かに寂しい反面、何もないからイベント時は自由に使える側面もある。例えば、プロムナード側に店の入り口が来るようになったら、イベント時には沿道の店舗に配慮していくことも考えていく必要があるだろう。 - どの方向性においても プロムナードは関連してくるため、プロムナードは重要である。特に、日常使いのための空間の改善が重要テーマと感じる。

区分	具体的な方向性	ご意見
		・ プロムナードの芝生化や椅子の設置など、留まれる場所があるとよい。区画を区切ってやっていくことも考えられるのではないかな。 ・ 普段をどうするかがカギとなる。相鉄線地下化の際、横浜銀行がプロムナード入り口部分で駅前に面していることから、1階を市民に開放してほしいと依頼したことがあるが、駅前には、多くの人が集える拠点が必要であると感じている。 ・ イベント時には多くの子どもが集まるので、日頃から子どもが滞留できる場所があるとよいと感じる。
	活動の場や仕組みづくり	・ イベント時だけでなく、日常的に人が来るまちを目指すうえでは、プロムナードの設備を整えていく必要があるように感じる。整備には設備を整える方法も、ソフト的な方法もあると思う。 ・ イベント時の音響設備や椅子・テーブルなどが収納できるコンテナが欲しい。また、その倉庫は、イベント時には音響スタジオなどに転用できると良い。例えば、三菱UFJ銀行の脇の空地に設置できるとよいのではないかな。 ・ トイレが必要である。阿波おどり等の際も、マナーの問題等からエリア内の店舗はトイレ利用を禁止するようになってしまった。夜間閉鎖や有料にすることで管理もしっかりできるとよい。 ・ プロムナードの活用にあたっては、はじめにクレーム対応について考えなければならない。特に、西側は騒音に対する課題がある。そのほか、警察対応にあたっての行政の協力も欲しい。
方向性3	エリアリノベーション	・ 過去に中央通りで実施した歩道拡幅は、よかったと思う一方で、歩行者が少ない状況でもあるため、何のために拡幅していくかは考えるべきである。拡幅した歩道の一部を地域が利用できるようにするのも良いと思う。 ・ 建物のルールを入れるのであれば、所有者側へのメリットもあった方がよい。
方向性4	エリアブランディング	・ やまフェスは、多くの関係者が集まったことであれだけ規模の大きなイベントが実現できた点がよかったと感じている。 ・ “しゃぼんだまのまち”など、何かまちを象徴するものが一つがあるとよいと感じる。 ・ 周辺エリアとの比較などで大和の個性はなにかを追求し、大和らしさの分析をもっとできるとよいのではないかと感じた。 ・ 交通結節点でもあるため、大和駅周辺エリアだけでなくもう少し中域にターゲットを広げてもいいのではないかな。 ・ 子育て世代へのアプローチが大切であるが、一方で、まだ高齢化が続いていく現状もあるので、子育て世代を意識しつつ多世代に対する取組が大切に感じる。

区分	具体的な方向性	ご意見
	情報発信	・ 情報発信はお金を掛けなくてもアイデアでできることであるため、積極的にできるとよいのではないか。回覧板や SNS 等、世代などによりみるものも異なる点は意識しておくべきである。
その他	ゴール	・ 今回の取組をすることで商店街が活性化していくことを目指していくべきである。

< Cグループ >

区分	具体的な方向性	ご意見
方向性 1	楽しい回遊動線	・ 駅からシリウスに向かうプロムナードの人の流れなど、既にあるものを活かすことが望ましい。
方向性 2	活動の場や仕組みづくり	・ みなまきラボでは、緑化の取組で生まれた地域貢献の意識から、ポイ捨てや放置自転車の報告などを自主的に行う人が出てきた。 ・ せっかく大和をよくしたいという気持ちで多くの人が集まっているので、人のつながりを生み、地元の方が居心地のいい場所にできるといい。 ・ 阿波おどりでの人のつながりや、保育園の横のつながりが広がっていき、今年度も開催予定の「大和駅周辺ハロウィンパレード」の企画に至った。 ・ 子育て王国大和という言葉もある。 ・ 様々なことについてオンラインが普及しているが、結局は対面のコミュニケーションが重要な時代となってきた。
	活動の場や仕組みづくり	・ 子ども向けのイベントは子どもたちが大人やお年寄りとも顔見知りになるため、災害時や防犯の面で有効である。 ・ 子ども向けのイベントは、必然的に保護者が参加することになるため、人のつながりも生まれやすく、居心地のいいまちなかをつくるきっかけとなる。 ・ ハロウィンパレードのような企画は、一時避難場所となっているプロムナードに、発災時に人が集まるとどうということが予想されるのかを考えるうえでも有効と言える。

区分	具体的な方向性	ご意見
方向性 4	エリアブランディング	・ 定期的なイベントを行うことで、大和がどんなところかイメージが付きやすい。 ・ 骨董市は、周辺地区からも集客がある。 ・ 大和駅に行けば「いつも何かやっている」というイメージがつけばいいのではないかと。イベントを常時開催することも考えられる。 ・ 阿波おどりは徳島のものと冗談交じりに言われたが、何でも受け入れるというのは一つのアイデンティティになりうると思う。また、継続していくことで何かが生まれると思う。 ・ 下北沢がカレーで有名になった発端は、店舗同士が競い合い続けたことであったため、継続性の重要度がうかがえる。 ・ 元々、阿波おどりは大和市の魅力や目玉を何か生み出そうとして徳島の本場に習って持ち込んだ歴史がある。 ・ 阿波おどりは駅周辺だけでなく、全市的に開催してもいいのではないかと。
その他	進め方	・ 即時性をもたせるためにも、まずはプロムナードに限って取組・イベントを検討していくことも考えられる。
	本プロジェクト全般について	・ この機会を無駄にせず、魅力あるビジョンをつくりたい。 ・ 道路事業など、市がどの程度関われるのか、明確にしてほしい。 ・ 再開発をかつて検討していたのに頓挫したものもある。今回も実現性がないように感じる。

※本議事録は、事務局が記録用に作成したもので、各出席者の確認を得たものではありません。